

第2回計画検討部会資料

令和2年7月31日

資料1-3

成果目標設定に係る考え方

札幌市保健福祉局 障がい保健福祉部 障がい福祉課

もくじ
目次

成果目標①	入所施設の入所者の地域生活への移行	1
成果目標②	精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築	15
成果目標③	地域生活支援拠点等の整備及び機能の充実	19
成果目標④	福祉施設から一般就労への移行	23
成果目標⑤	医療的ケアを必要とする障がいのある子どもへの支援	33
成果目標⑥	相談支援体制の充実強化等	37
成果目標⑦	障がい福祉サービス等の質の向上を図るための取組の推進	41
成果目標⑧	障がいのある人に対する理解促進	45

せい かもくひょう
成果目標①

にゅうしょしせつ にゅうしょしゃ ちいきせいかつ いこう
入所施設の入所者の地域生活への移行

せい かもくひょう ① にゅうしょしせつ にゅうしょしゃ ちいきせいかつ いこう
成果目標① 入所施設の入所者の地域生活への移行

げんこう もくひょう たっせいじょうきょう
現行の目標と達成状況

げんこう もくひょう 現行の目標		もくひょう たっせいじょうきょう みこ 目標の達成状況／見込み	
いこうしやすう 移行者数	ねん がつ にち しせつにゅうしょしゃ 2017年3月31日の施設入所者 2,093人のうち、2020年度末にお いて125人(6%)の方が地 域生活に移行することをめざ します。	ねん がつまつじてん にん やく ぼーせんと ちいき 2019年3月末時点で27人(約1.3%)が地域 へ移行しました。 (内訳) 2017年4月1日～2018年3月31日：19人 2018年4月1日～2019年3月31日：8人 ※北海道調べ	たっせい むずか <u>達成は難しい。</u> もくひょうたっせい ねん 目標達成には2021年 3月末までに、98人(49 人/年)の地域移行が 必要です。
げんしょうすう 減少数	ねん どまつ しせつにゅうしょしやすう 2020年度末の施設入所者数が 2017年3月31日の施設入所者数 (2,093人)から83人(約4%)減少することをめざ します。	ねん がつまつ げんしょう にんずう にん 2020年3月末までに減少した人数は85人です。 (内訳) 2017年4月1日～2018年3月31日：26人 2018年4月1日～2019年3月31日：41人 2019年4月1日～2020年3月31日：18人	もくひょうたっせい <u>目標達成</u>

さっぽろし おも とりくみ
札幌市の主な取組

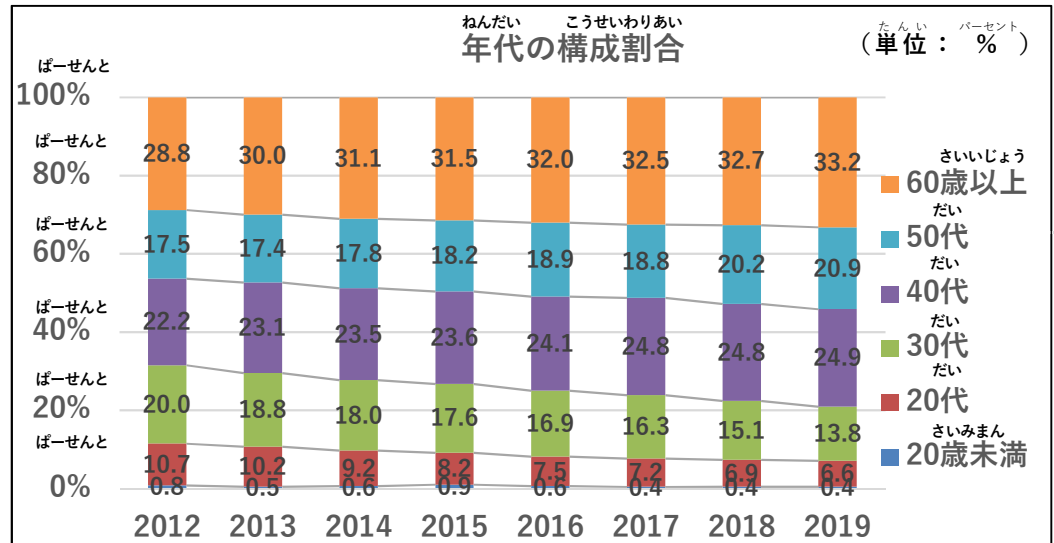
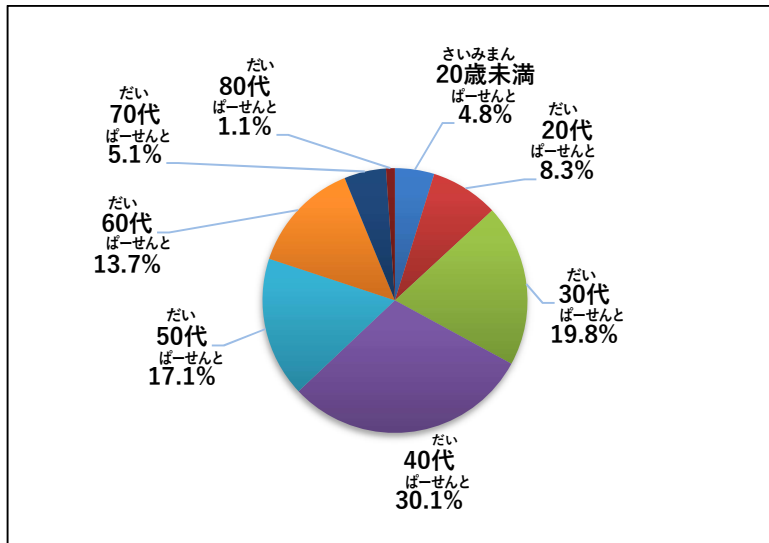
- ちいき における すまいの ば かくほ を確保するため、しょう がいの ある 方 を受け入れる グループホーム の新築整備等の費用を一部補助しています。
- そうだんし えんじぎょうしょ に、く やくしょ ちいきふくしかんけいしやとう れんけい はか を図るため「ちいき支援員」を配置したり、ちいき で生活するしょう がいの ある 方 を「ピアサポーター」として配置し、当事者が中心になった活動を支援しています。

せいかもくひょう ① にゅうしょせつ にゅうしょしゃ ちいきせいかつ いこう
成果目標① 入所施設の入所者の地域生活への移行

- 基幹相談支援センターでは、相談支援事業所への専門的な助言、計画相談支援や地域移行・地域定着支援の推進、ピアサポーターの活動を支援しています。

れいわがんねんどしょう じしゃじったいとちようさ けっか
令和元年度障がい児者実態等調査の結果

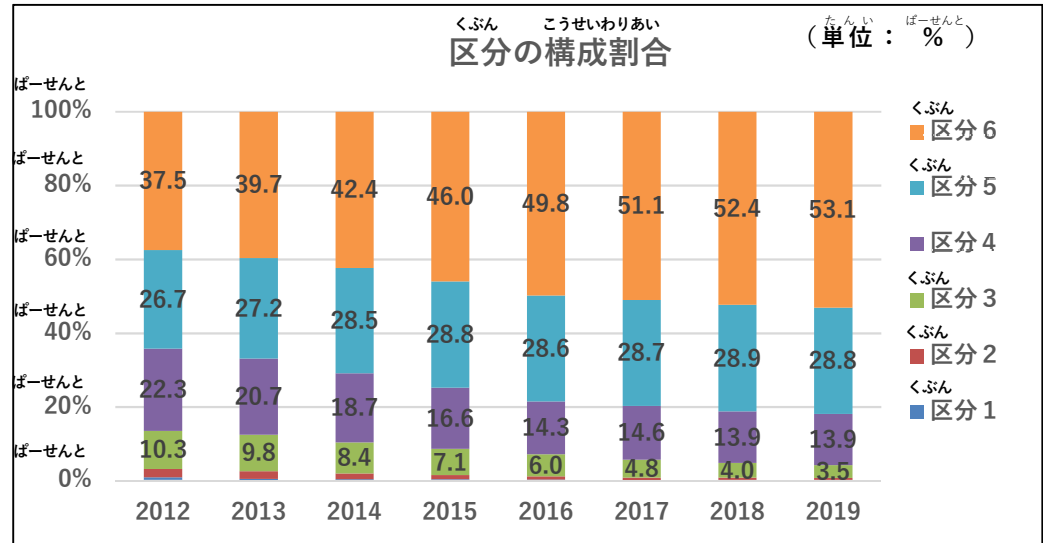
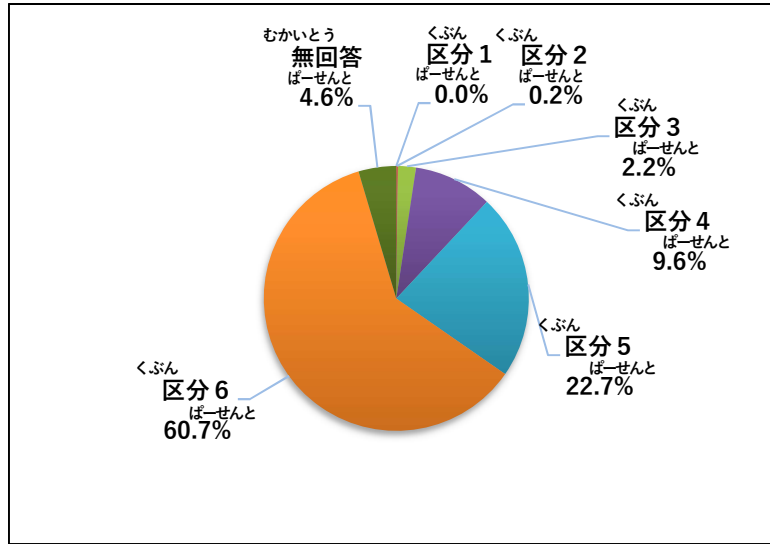
- 施設入所者の年齢
 入所者のおよそ2割（19.9%）は60歳以上。年々、高齢化の傾向にあります。



せい かもくひょう ① にゅうしょしせつ にゅうしょしゃ ちいきせいかつ いこう
成果目標① 入所施設の入所者の地域生活への移行

しせつにゅうしょしゃ しょうがいしえんくぶん
 ○ **施設入所者の障害支援区分**

くぶん 5・6 の方は 8 割以上です。しょうがい程度 の重い方が大部分を占めています。



ちいきせいかつ む にゅうしょしゃほんにん いこう
 ○ **地域生活へ向けた入所者本人の意向**

ちょうさ かいとう にん 648 人の方のうち、**32人**が地域生活を希望または関心があると回答しました。

なお、入所期間による違いはありませんでした。

せいかもくひょう ① せいかもくひょう ① せいかもくひょう ① せいかもくひょう ① せいかもくひょう ①
成果目標① 入所施設の入所者の地域生活への移行

○ **退所の可能性のある施設入所者数**

今後、地域生活に移行または可能性のある方の人数は **54人**です。

ちいき いこう き 地域への移行が決まっている	1人
きょじゅうさき しえん ととの げんざい じょうきょう たいしよ かのう 居住先・支援が整えば、現在の状況でも退所が可能	28人
げんじてん ひ つづ しせつ くんれん ひつよう ちょうきてき れいわ ねんどまつ かのうせい 現時点では引き続き施設での訓練が必要であるが、長期的（令和5年度末まで）には可能性がある	25人

○ **退所に向けての問題点・不安な点**

最も多いのは「介護や見守り等の支援が常時必要である」(65.9%)。次いで「本人の意思が確認できない」が51.1%でした。

○ **退所に向けて施設職員が行っている支援**

入所者に対して定期的に退所に関する説明をしたり、相談支援事業所やサービス提供事業所等の関係機関との連携を図るなどの支援に取り組まれています。

せい かもくひょう ① にゆうしょしせつ にゆうしょしゃ ちいきせいかつ いこう
成果目標① 入所施設の入所者の地域生活への移行

せい かもくひょう もくひょうせってい かんが かつ
成果目標と目標設定の考え方

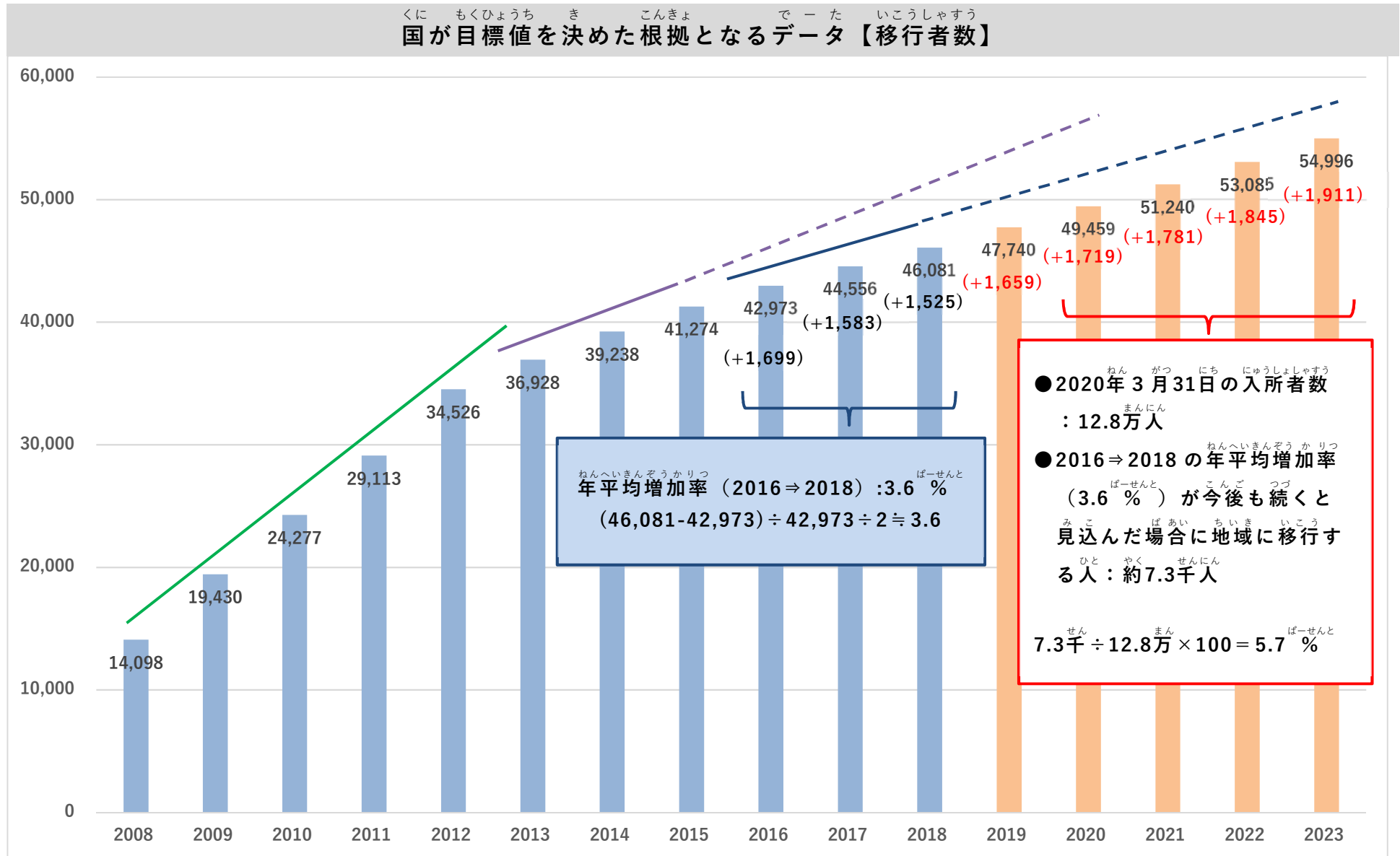
くに だ せい かもくひょう だい き 国から出されている成果目標（第5期）	
移行者数	2017年3月31日の時点で福祉施設に入所している障がいのある方のうち、2021年3月31日までに <u>9%</u> 以上が地域での生活に移ることを基本とする。
減少数	2017年3月31日の時点で、福祉施設に入所している障がいのある方のうち、2021年3月31日までに <u>2%</u> 以上削減することを基本とする。

くに しめ じ き けいかく だい き せい かもくひょう 国が示す次期計画（第6期）の成果目標	
移行者数	2020年3月31日の時点で福祉施設に入所している障がいのある方のうち、2024年3月31日までに <u>6%</u> 以上が地域での生活に移ることを基本とする。
減少数	2020年3月31日の時点で、福祉施設に入所している障がいのある方のうち、2024年3月31日までに <u>1.6%</u> 以上削減することを基本とする。

さっぽろし げんこうけいかく せい かもくひょう 札幌市の現行計画の成果目標	
移行者数	2017年3月31日の施設入所者2,093人のうち、2020年度末において <u>125人（6%）</u> の方が地域生活に移行することをめざします。
減少数	2017年3月31日の時点で福祉施設に入所している障がいのある方のうち、2021年3月31日までに <u>83人（約4%）</u> 減少することをめざします。

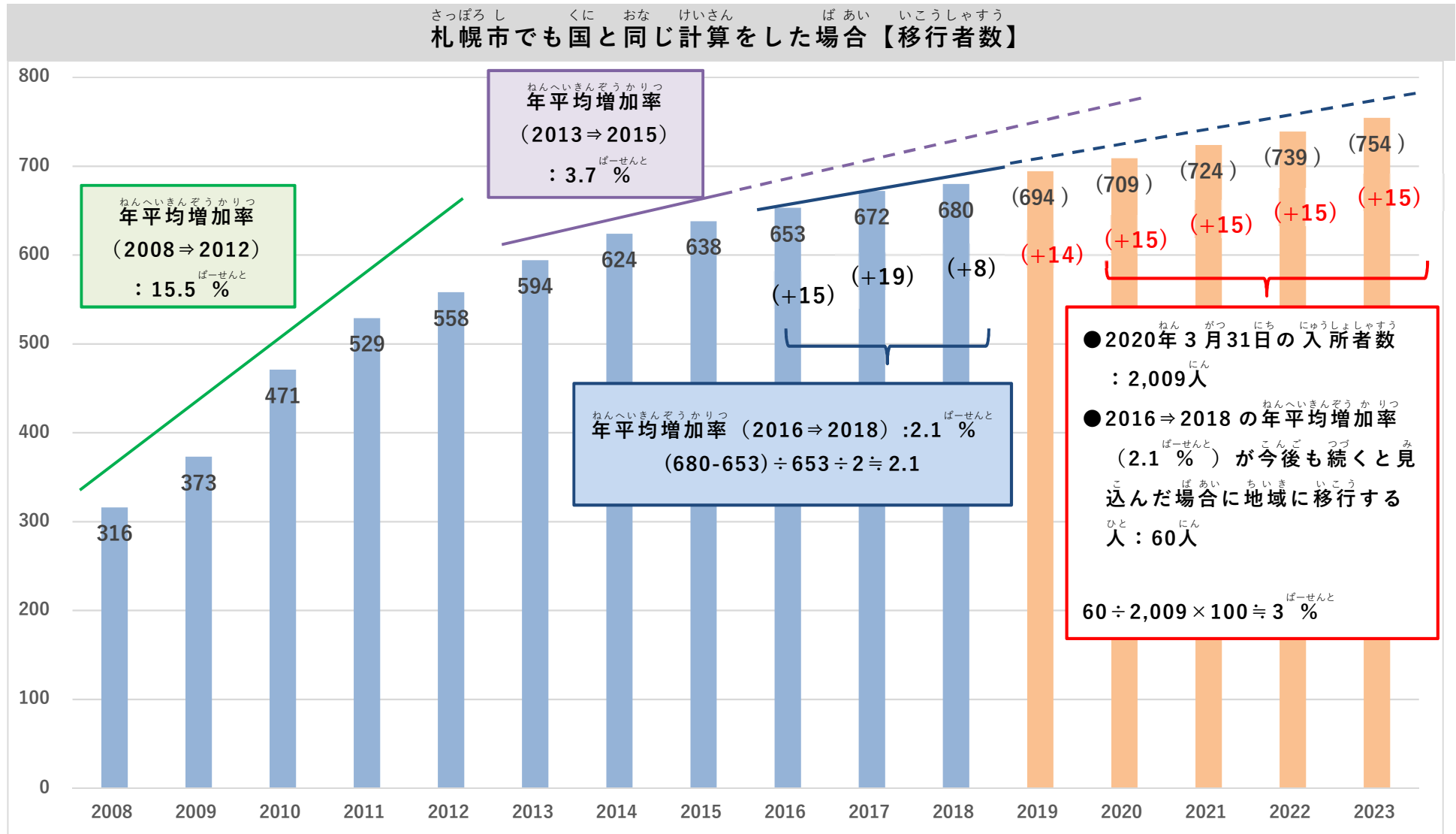
さっぽろし じ き けいかく せい かもくひょう 札幌市の次期計画の成果目標	
移行者数	2020年3月31日の施設入所者2,009人のうち、2023年度末において <u>60人（約3%）</u> の方が地域生活に移行することをめざします。
減少数	2020年3月31日の時点で、福祉施設に入所している障がいのある方のうち、2024年3月31日までに <u>110人（約5.5%）</u> 減少することをめざします。

せい かもくひょう せつ せつ せつ せつ せつ
成果目標① 入所施設の入所者の地域生活への移行



※ 図の赤枠 : 約7.3千人 (5.7%) の方が地域に移行するという予想であり、6% が目標とされています。

成果目標① 入所施設の入所者の地域生活への移行

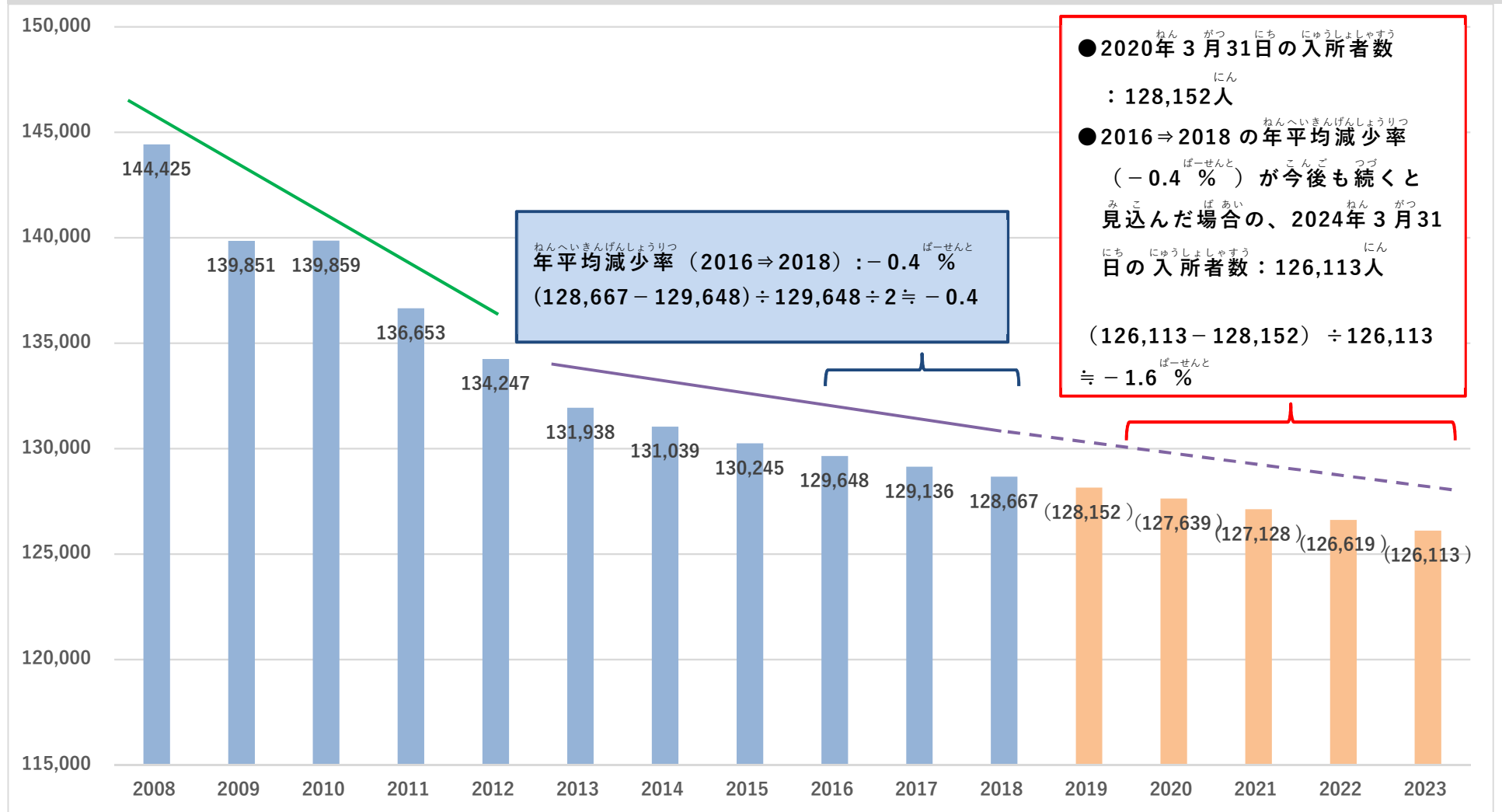


※ 図の赤枠 : 60人 (3%) の方が地域に移行すると予想できます。

※ 地域移行者数の伸びは鈍化傾向にあります。施設入所者の重度化・高齢化が要因の一つと考えられます。

せいかもくひょう ① 成果目標
 にゅうしょしせつ にゅうしょしゃ ちいきせいかつ いこう
 入所施設の入所者の地域生活への移行

くに もくひょうち き こんきよ で た げんしょうすう
 国が目標値を決めた根拠となるデータ【減少数】



● 2020年3月31日の入所者数
 : 128,152人

● 2016⇒2018の年平均減少率
 (-0.4%) が今後も続くと
 見込んだ場合の、2024年3月31
 日の入所者数 : 126,113人

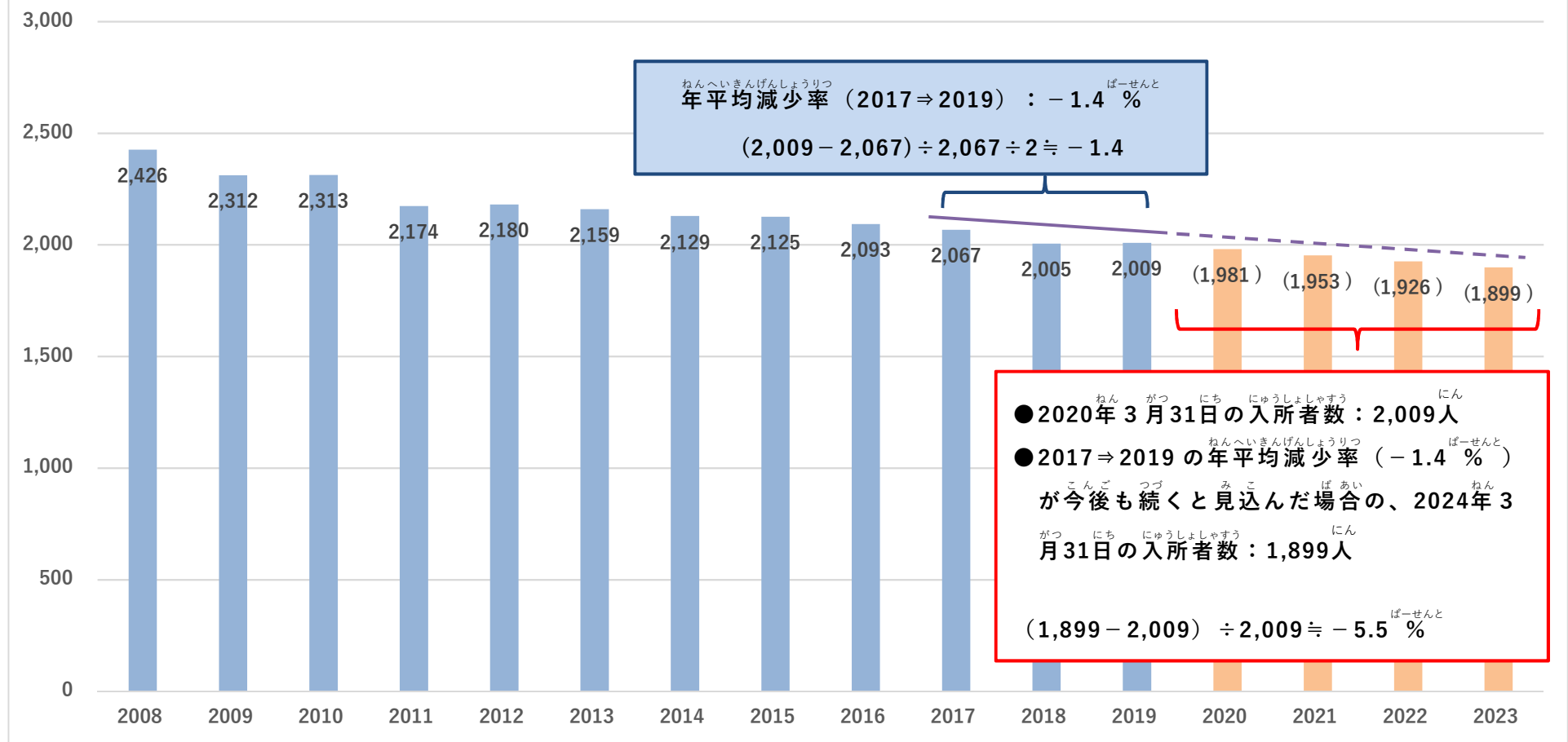
$(126,113 - 128,152) \div 126,113$
 $\approx -1.6\%$

年平均減少率 (2016⇒2018) : -0.4%
 $(128,667 - 129,648) \div 129,648 \div 2 \approx -0.4$

※ 図の赤枠 : 2019年度末の時点で、施設に入所している方が128,152人だった場合、2023年度末には126,113人まで減らせるという予想であり、1.6%の減少が目標とされています。

成果目標① 入所施設の入所者の地域生活への移行

札幌市でも国と同じ計算をした場合【減少数】



※ 図の赤枠 : 2019年度末の時点で、施設に入所している方が2,009人であり、2023年度末には1,899人まで減らせると予想でき、5.5%の減少が予想できます。

※ 地域移行以外の減少要因としては、死亡や長期入院等があります。また、障がいの重い方を受け入れるグループホームの整備も進んできていると考えられます。

せいかもくひょう ① 成果目標 入所施設の入所者の地域生活への移行

もくひょうちせつてい かんが かつ 目標値設定の考え方

○ 施設入所者の地域生活への移行者数

ほっかいどうしら による「入所施設から地域生活への移行者数」から算出。2016～2018年度の年平均増加率（約2.1%）から、2020～2024年度の累計移行者数（推計）を60人（約3%）と設定しました。

※4月～翌年3月	2016年度	2017年度	第5期障がい福祉計画 第1期障がい児福祉計画			第6期障がい福祉計画 第2期障がい児福祉計画		
			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
移行者数	15	19	8	14	15	15	15	15
2017.4以降の累計		19	27	41	56			
2020.4以降の累計					15	30	45	60
進捗率		15.2%	21.6%	32.0%	44.8%			

※実績値については北海道が集計を行っており、2018年度末時点の数字が最新。

せいかもくひょう ① にゅうしょしせつ にゅうしょしゃ ちいきせいかつ いこう
成果目標① 入所施設の入所者の地域生活への移行

○ しせつにゅうしょしやすう げんしょう
施設入所者数の減少

しせつにゅうしょしえん さーびすりようじっせき さんしゅつ ねんど ねんへいきんげんしょうりつ ばーせんと
 施設入所支援のサービス利用実績から算出。2017～2019年度の年平均減少率（-1.4 %）から、2020～2023
 年度の累計減少数（推計）を110人（約5.5 %）と設定しました。

	2016年度末	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
入所者数	2,093	2067	2,005	2,009	1,981
2017.4以降の減少数		▲26	▲88	▲84	▲112

※実績値については2019年度末時点の数字が最新。2020年度末の数字は見込み。

	2019年度末	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
入所者数	2,009	1,981	1,953	1,926	1,899
2020.4以降の減少数		▲28	▲56	▲83	▲110

もくひょう たっせい ほうさく
目標達成のための方策

○ かいご みまも たいせいとう じゅうじつ
介護・見守り体制等の充実

ちいきせいかつ おこな ひつよう かいご みまも たいせい こうちく
地域生活を行うために必要な介護・見守り体制を構築します。

- じゅうどしやう しゃ たいおう ほうもんけい にちちゅうかつどうけい さーびす ちいきていちゃくしえんとう りようそくしん
・ 重度障がい者に対応した訪問系・日中活動系サービスや、地域定着支援等の利用促進
- じゅうどほうもんかいご ひていけいしきゅうけつてい どうにゅう
・ 重度訪問介護の非定型支給決定の導入
- ちいきせいかつしえんきよてんとう かつよう
・ 地域生活支援拠点等の活用
- せいかつ かいご じぎょうしよ じゅうどしやう かた うけいれそくしん
・ 生活介護事業所における重度障がいのある方の受入促進

○ す まいの かくほ
住まいの確保

ぐるーぷ ほーむ せいびすいしんとう す まいの かくほ はか
グループホームの整備推進等により、住まいの確保を図ります。

みんかんじゅうたく いこう かのう かた いたくそうだんしえんじぎょうしよ おこな じゅうたくにゆうきよとうしえんぎょうむとう みんかんじゅうたくとう にゅう
民間住宅への移行が可能なのは、委託相談支援事業所が行う住宅入居等支援業務等により、民間住宅等への入
居促進を図っていきます。また、市営住宅入居者募集の抽選時の優遇や、入居から退去までをサポートする相談体
制の充実などにより、民間住宅を含む住宅市場全体で住宅セーフティネット（安全網）を構築し、高齢の方、障
がいのある方など、住宅確保要配慮者の居住の場の安定確保を目指します。

○ そうだんしえん じゅうじつ
相談支援の充実

ちいき いこうしえんおよ ちいきていちゃくしえん りよう そくしん
地域移行支援及び地域定着支援の利用を促進します。

せい かもくひょう
成果目標②

せいしんしょう たいおう ちいきほうかつ
精神障がいにも対応した地域包括

けあしすてむ こうちく
ケアシステムの構築

せいかもくひょう せいしんしょう たいおう ちいきほうかけ あしすてむ こうちく
成果目標② 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築

げんこう もくひょう たっせいじょうぎょう
現行の目標と達成状況

げんこう もくひょう 現行の目標	もくひょう たっせいじょうぎょう みこ 目標の達成状況／見込み	
ねんどまつ せいしんしょう たいおう ちいきほうかけ あしすてむ こうちく む かんけいしゃ きょうぎ ぼ せっち 2020年度末までに、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた関係者による協議の場を設置します。	ねんどちゅう せっち よてい 2020年度中に設置する予定です。	たっせい みこ <u>達成の見込み</u>

さっぽろし おも とりくみ
札幌市の主な取組

- じりつしえんきょうぎ かいせいしんしょう しゃちいきいこうすいしんぶろ じえくとちーむ ぎろん ふ ねんどちゅう せっち む
 自立支援協議会精神障がい者地域移行推進プロジェクトチームにおける議論を踏まえ、2020年度中の設置に向けて準備を進めています。

せい かもくひょう もくひょうせってい かんが かつ
成果目標と目標設定の考え方

くに だ せい かもくひょう だい き
国から出されている成果目標（第5期）

しちやうそん せい しんしやう たいおう ち いきほうかつ け あ
 市町村ごとに、精神障がいにも対応した地域包括ケア
 し す て む こうちく む かんけいしゃ きやうぎ ば せっち
 システムの構築に向けた関係者による協議の場を設置し
 ます。

くに しめ じ きけいかく だい き せい かもくひょう
国が示す次期計画（第6期）の成果目標

せい かもくひょう せってい
 成果目標は設定しません。

※ きやうぎ ば せっち たいりくみ かつどうしひやう せってい
 ※ 協議の場における取組は、活動指標として設定さ
 れています。

くに もくひょうちせってい かんが かつ
 ○ 国における目標値設定の考え方

せい しんしやう たいおう ち いきほうかつ け あし す て む こうちく む かんけいしゃ きやうぎ ば せっち だい き
 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた関係者による協議の場の設置については、第5期
 しょうがいふくしけいかくきかんちゆう けんいき せっち みこ こんご きやうぎ ば かつせいか む とく く ひつやう
 障害福祉計画期間中にほぼすべての圏域で設置される見込み。今後は協議の場の活性化に向けた取り組みが必要。
 なお、しちやうそん きやうぎ ば せっち ひ つづ せっち む とく く すす ひつやう
 なお、市町村ごとの協議の場の設置については、引き続き設置に向けた取り組みを進めていくことが必要。

さっぽろし げんこうけいかく せい かもくひょう
札幌市の現行計画の成果目標

ねんどまつ せい しんしやう たいおう ち いきほうかつ
 2020年度末までに、精神障がいにも対応した地域包括
 け あし す て む こうちく む かんけいしゃ きやうぎ ば せっ
 ケアシステムの構築に向けた関係者による協議の場を設
 ち
 置します。

さっぽろし じ きけいかく せい かもくひょう
札幌市の次期計画の成果目標

もくひょうたっせい みこ せってい
 目標達成の見込みであるため設定しません。

※ きやうぎ ば せっち たいりくみ かつどうしひやう せってい
 ※ 協議の場における取組は、活動指標として設定さ
 れています。

せい かもくひょう
成果目標③

ち い き せい かつ し えん きょ てん と う せい び およ き の う じゅう じ つ
地域生活支援拠点等の整備及び機能の充実

げんこう もくひょう たっせいじょうきょう
現行の目標と達成状況

げんこう もくひょう 現行の目標	もくひょう たっせいじょうきょう みこ 目標の達成状況／見込み	
ちいきせいかつしえんきよてんとう ちいきせいかつしえんきよてん ちいき 地域生活支援拠点等（地域生活支援拠点または地域に おいて機能を分担する面的な体制）を、2020年度末まで に少なくとも1か所整備します。	ねんどちゅう めんてき たいせい せいび 2020年度中に面的な体制を整備する 予定です。	たっせい みこ <u>達成の見込み</u>

ちいきせいかつしえんきよてんとう
 <地域生活支援拠点等について>

しょう かがた こうれいか じゅうどか おやな あと みす しょう じ しゃ きょじゅうしえん きのう そうだん たいけん
 障がいのある方の高齢化・重度化や「親亡き後」も見据え、障がい児・者の居住支援のための機能（相談、体験の
 きかい ば やかんきんきゅうじ う い たいおう せんもんせい ちいき たいせい
 機会・場、夜間緊急時の受け入れ・対応、専門性、地域の体制づくり）を、地域の实情に応じた創意工夫により整備
 し、しょう かがた せいかつ ちいきぜんたい ささ ーび す ていきょうたいせい せいび
 障がいのある方の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を整備するもの。

せい かもくひょう もくひょうせってい かんが かつ
成果目標と目標設定の考え方

くに だ せい かもくひょう だい き
国から出されている成果目標（第5期）

ねんどもつ までは、 かくしちようそん または かくけんいき にく
 2020年度末までに、各市町村または各圏域に少
 なくとも1つをせいびする。



くに しめ じきけいかく だい き せい かもくひょう
国が示す次期計画（第6期）の成果目標

ねんどもつ までの あいだ かくしちようそん または かくけんいき にく
 2023年度までの間、各市町村または各圏域に少なくとも
 1つをかくほしつつ、そのきのうのじゅうじつのため、ねん かいじょううん
 用状況をけんしやう、けんとうすることをきほんとする。

くに もくひょうちせってい かんがえかつ
 ○国における目標値設定の考え方

ちいきせいかつしえんきよてんとう せいびご ちいき に ー ざ かつだいい こた ひつよう きのう すいじゆん じゅうそく けいぞくてき
 地域生活支援拠点等の整備後も、地域のニーズ・課題にんえられているか、必要な機能の水準や充足を継続的に
 けんしやう けんとう おこな ひつよう
 検証・検討を行う必要がある。

さっぽろし げんこうけいかく せい かもくひょう
札幌市の現行計画の成果目標

ねんどもつ までは、 ちいきせいかつしえんきよてんとう にく
 2020年度末までに、地域生活支援拠点等を少な
 くとも1か所せいびすることをめぎします



さっぽろし じきけいかく せい かもくひょう
札幌市の次期計画の成果目標

ねんどもつ までの あいだ 1 か所以上の しよいじょう ちいきせいかつしえんきよてんとう
 2023年度末までの間、1か所以上の地域生活支援拠点等
 をかくほしつつ、そのきのうのじゅうじつのため、ねん かいじょううんよう
 用状況をけんしやう、けんとうすることをめぎします。

さっぽろし もくひょうちせってい かんが かつ
 ○札幌市における目標値設定の考え方

じりつしえんきやうぎ かいとうかんけいき かん きやうぎ すす ねんどもつ ちいきせいかつしえんきよてんとう せいび
 自立支援協議会等関係機関で協議を進め、2020年度末までに地域生活支援拠点等を整備します。また、国の基本
 ししん ねん かいじょううんようじょうきやう けんしやう けんとう めぎ
 指針どおり、年1回以上運用状況の検証、検討を目指します。

せい かもくひょう
成果目標④

ふくししせつ いっぱんしゅうろう いこう
福祉施設から一般就労への移行

げんこう もくひょう たっせいじょうきょう
現行の目標と達成状況

げんこう もくひょう 現行の目標	げんこう もくひょう 現行の目標	もくひょう たっせいじょうきょう みこ 目標の達成状況／見込み	もくひょう たっせいじょうきょう みこ 目標の達成状況／見込み
ふくししせつ いっぱん 福祉施設から一般 しゅうろう いこうしゃ 就労への移行者 すう 数	ねんど 2020年度において、福祉施設の りようしゃ いっぱんしゅうろう いこうしゃ 利用者のうち一般就労への移行者 すう ねんど いこうじっせき にん 数を、2016年度の移行実績444人 の 1.5倍（666人）とします。	ねんど じっせき にん 2018年度の実績は 585人。 ※北海道調べ	たっせい むずか <u>達成は難しい。</u> げんざい けいざいじょうせいとう 現在の経済情勢等を こうりよ ねんど じっ 考慮すると 2018年度実 せき うまわ むずか 績を上回することは難し いとおも われます。
しゅうろういこうしえんじ 就労移行支援事 ぎょう りようしゃすう 業の利用者数	ねんどまつ りようしゃすう 2020年度末における利用者数が ねんどまつ にん にん 2016年度末の 769人から 846人 （1割増加）とすることを目標と します。	ねんど じっせき にん 2019年度の実績は 797人。 ※1月実績	たっせい むずか <u>達成は難しい。</u> もくひょうたっせい 目標達成には、2020 ねんど にん りよう 年度までに 846人が利用 するひつよう 必要があります。
しゅうろういこうしえんじ 就労移行支援事 ぎょうしょ しゅうろういこう 業所の就労移行 りつ 率	ねんどまつ じてん しゅうろういこう 2020年度末の時点で、就労移行 りつ わりいじょう しゅうろういこうしえんじ 率が3割以上の就労移行支援事 ぎょうしょ ぜんたい わりいじょう 業所を全体の5割以上とすること をめざ を目指します。	ねんど じっせき ぱーせんと 2018年度の実績は 51.4 %。 ※北海道調べ	もくひょうたっせい <u>目標達成</u> ねんどまつじてん 2018年度末時点ではす でにもくひょう たっせい 目標を達成している。
しゅうろうていちゃくしえんじ 就労定着支援事 ぎょうしょ しょくば 業所による職場 ていちゃくりつ 定着率	しゅうろうていちゃくしえんじぎょう しえん 就労定着支援事業による支援 かいし じてん ねんど しょくば を開始した時点から1年後の職場 ていちゃくりつ わりいじょう 定着率を8割以上とします。	しゅうろうていちゃくしえんじぎょう ねん 就労定着支援事業は 2018年 4 がつ かいし れいわがん ねんど じっせきちょうさ 月に開始。令和元年度実績調査 こんご じっしよてい ほっかいどうしら は今後実施予定。※北海道調べ	(Blank cell with diagonal line)

せいかもくひょう ④ 成果目標 ④ 福祉施設から一般就労への移行

< 福祉施設の利用者とは >

就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型のいずれかを利用している方のことをいいます。

札幌市の主な取組

- 収益性を確保しながら障がいのある方が継続して雇用されるよう、障がいのある方を5人以上雇用する事業所等に運営経費の補助を行いました。(障がい者協働事業)
- 障がいのある方の雇用の促進と就労の安定を図るため、就業や日常生活の支援を行うとともに、ハローワーク等の関係機関と連携して「ジョブサポーター」や支援員による雇用促進・職場定着支援を行うなど、就労相談支援体制の充実に取り組みました。(障がい者就業・生活支援事業)
- 履歴書の書き方や社会マナー等、就職のためのスキル習得や福祉サービス事業所の支援能力の向上、民間企業に障がい者の理解を深めるため、セミナー開催や職場実習・求人紹介等を行いました。(障がい者元気スキルアップ事業)

(参考)

- 2018年4月の障がい者法定雇用率の引き上げは、一般就労への移行が進んだ要因の一つと考えられます。法定雇用率の引き上げがあった年度は、一般就労移行者数が増加する傾向が見られました。

せいかもくひょう もくひょうせってい かんが かつ
 成果目標と目標設定の考え方

くに だ せいかもくひょう だい き 国から出されている成果目標 (第5期)
2020年度において、福祉施設の利用者のうち一般就労への移行者数を、2016年度の移行実績の1.5倍以上とする。
2020年度末における就労移行支援事業の利用者数が、2016年度末の2割以上増加する。
2020年度末の時点で就労移行率3割以上の就労移行支援事業所を全体の5割以上とする。
/
就労定着支援事業による支援を開始した時点から1年後の職場定着率を全体の5割以上とすることを旨とする。



くに しめ じきけいかく だい き せいかもくひょう 国が示す次期計画 (第6期) の成果目標
2023年度において、福祉施設の利用者のうち一般就労への移行者数を2019年度の移行実績の1.27倍以上とする。就労移行支援事業は2019年度の移行実績の1.30倍以上、就労継続支援A型は概ね1.26倍以上、就労継続支援B型は概ね1.23倍以上とする。
※ 成果目標は設定されていません。 (福祉施設から一般就労への移行者数で評価します。)
※ 成果目標は設定されていません。 (福祉施設から一般就労への移行者数で評価します。)
2023年度における就労移行支援事業所等を通じて一般就労に移行する方のうち、7割が就労定着支援事業を利用することを基本とする。
就労定着支援事業所のうち、就労定着率が8割以上の事業所を全体の7割以上とすることを基本とする。

せいかもくひょう ④ ふくししせつ いっぱんしゅうろう いこう
成果目標④ 福祉施設から一般就労への移行

○ くに おける もくひょうちせつてい かんが なた
国における目標値設定の考え方

- 「いっぱんしゅうろう いこう かん もくひょう いこうしゃすう ひ つづ せつてい
「一般就労への移行」に関する目標として、移行者数を引き続き設定する。
- しゅうろういこうしえんじぎょう とりくみ さら すす しゅうろうけいぞくしえん とりくみ ひょうか しゅうろういこうしえん
就労移行支援事業の取組を更に進めるとともに、就労継続支援の取組も評価していくために、就労移行支援、
しゅうろうけいぞくしえんえーがた しゅうろうけいぞくしえんびーがた もくひょう せつてい
就労継続支援A型、就労継続支援B型について目標を設定する。
- このため、しゅうろういこうしえんじぎょうしよ とりくみ いこうしゃすう ひょうか しゅうろういこうしえんじぎょう りょうしゃすうおよ しゅうろう
移行支援事業所の就労移行率は目標値として設定しない。
- しゅうろうていちゃくしえんじぎょう りょうじょうきょう ふ さら きーび すりょう うなが りょうしゃすう せいかもくひょう ついか
就労定着支援事業の利用状況を踏まえ、更なるサービス利用を促すため利用者数を成果目標として追加する。
- ていちゃくりつ すうちもくひょう へいせい ねんどほうしゅうかいてい ないよう しゅうろうていちゃくりつ か こ ねんかん しゅうろうていちゃくしえん そうりょうしゃ
定着率の数値目標について、平成30年度報酬改定の内容（就労定着率（過去3年間の就労定着支援の総利用者
すう ぜんねんどまつじてん しゅうろうていちゃくしゃすう おう きほんほうしゅう あ
数のうち前年度末時点の就労定着者数）に応じた基本報酬）に合わせる。

せいかもくひょう 成果目標④
 ふくししせつ いっぱんしゅうろう いこう 福祉施設から一般就労への移行

さっぽろし げんこうけいかく せいかもくひょう 札幌市の現行計画の成果目標	
ふくししせつ いっ 福祉施設から一 ばんしゅうろう い こう 般就労への移行 しゃすう 者数	2020年度において、福祉施設の利用者のうち一般就労への移行者数を、2016年度の移行実績444人の1.5倍（666人）とします。
しゅうろういこうしえんじ 就労移行支援事 ぎょう りょうしゃすう 業の利用者数	2020年度末における利用者数が2016年度末の769人から846人（1割増加）とすることを目標とします。
しゅうろういこうしえんじ 就労移行支援事 ぎょうしょ しゅうろういこう 業所の就労移行 りつ 率	2020年度末の時点で、就労移行率が3割以上の就労移行支援事業所を全体の5割以上とすることを目指します。
しゅうろうていちゃくしえん 就労定着支援 じぎょう りょうしゃすう 事業の利用者数	
しゅうろうていちゃくしえん 就労定着支援 じぎょうしょ 事業所による しよくば ていちゃくりつ 職場定着率	就労定着支援事業による支援を開始した時点から1年後の職場定着率を8割以上とします。

さっぽろし じきけいかく せいかもくひょう 札幌市の次期計画の成果目標	
2023年度において、福祉施設の利用者のうち一般就労への移行者数を2019年度の移行実績の1.12倍（564人）とすることをめざします。また、就労移行支援事業は1.05倍（341人）、就労継続支援A型は1.10倍（95人）、就労継続支援B型は1.36倍（128人）とすることをめざします。	
2023年度における就労移行支援事業所等を通じて一般就労に移行する方のうち、7割が就労定着支援事業を利用することをめざします。	
国が示す成果目標は達成済みであるため、成果目標は設定しません。	

○ さっぽろし もくひょうちせつてい かんが かが 札幌市における目標値設定の考え方

せいかもくひょう ④ 成果目標 福祉施設から一般就労への移行

- ・ 2016～2018年度の一般就労移行者数とサービス利用者数から、年平均就労移行率（就労移行支援40.6 %、就労継続支援A型4.3 %、就労継続支援B型1.3 %）を算出しました。
 - ・ 2019～2023年度のサービス利用者数（2020年度以降は見込み）に年平均就労移行率を乗じ、サービスごとの一般就労移行者数（見込み）を算出しました。
- ※ 波線部は、2019年度実績（北海道調べ）集計後に更新予定です。
- ・ 就労定着支援事業の利用者数については、国の基本指針どおりに設定します。

せいかもくひょう ④ 成果目標 福祉施設から一般就労への移行

	ねんど 2015年度	ねんど 2016年度	ねんど 2017年度	ねんど 2018年度	ねんど 2019年度	ねんど 2020年度	ねんど 2021年度	ねんど 2022年度	ねんど 2023年度
いっばんしゅうろういこうしゃすう 一般就労移行者数	378	444	457	585	505	518	535	550	564
ねんど ひかく ばい 2019年度との比較 (倍)						1.03倍	1.06倍	1.09倍	1.12倍
いこうしゃすう しゅうろういこうしえん 移行者数 (就労移行支援)	258	299	306	403	324	327	333	337	341
ねんど ひかく ばい 2019年度との比較 (倍)						1.01倍	1.03倍	1.04倍	1.05倍
いこうしゃすう しゅうろうけいぞくしえんえーがた 移行者数 (就労継続支援A型)	61	85	77	82	87	89	91	93	95
ねんど ひかく ばい 2019年度との比較 (倍)						1.02倍	1.05倍	1.07倍	1.09倍
いこうしゃすう しゅうろうけいぞくしえんびーがた 移行者数 (就労継続支援B型)	59	60	74	100	94	102	111	119	128
ねんど ひかく ばい 2019年度との比較 (倍)						1.08倍	1.18倍	1.27倍	1.36倍

※実績値については北海道が集計を行っており、2018年度末時点の数字が最新。

※2019年度以降の一般就労移行者数及び2019年度との比較(倍)は、現時点での推計。

(参考)

(単位：人)

サービス利用者数	ねんど 2019年度	ねんど 2020年度	ねんど 2021年度	ねんど 2022年度	ねんど 2023年度
しゅうろういこうしえん 就労移行支援	797	806	820	830	840
しゅうろうけいぞくしえんえーがた 就労継続支援A型	2,027	2,072	2,120	2,170	2,220
しゅうろうけいぞくしえんびーがた 就労継続支援B型	7,224	7,873	8,520	9,170	9,820

※サービス利用者数について、2020年度以降の数字は見込み。

もくひょうたっせい ほうさく
目標達成のための方策

- 札幌市独自の就労支援事業は引き続き推進していきます。
おも とりくみ しょう しゃきやうどうじぎやう しょう しゃしやうぎやう せいかつしえんじぎやう しょう しゃげんきすきるあっぱじぎやう
主な取組：障がい者協働事業、障がい者就業・生活支援事業、障がい者元気スキルアップ事業

※25頁参照

- 国の雇用施策との連携を前提に取り組みます。

せい かもくひょう

成果目標⑤

いりょうてき け あ ひつよう しょう
医療的ケアを必要とする障がいのある

こ しえん
子どもへの支援

せいかもくひょう ⑤ いりょうてきけ あ ひつよう しょう こ しえん
成果目標⑤ 医療的ケアを必要とする障がいのある子どもへの支援

げんこう もくひょう たっせいじょうきょう
現行の目標と達成状況

げんこう もくひょう 現行の目標	もくひょう たっせいじょうきょう み こ 目標の達成状況／見込み	
いりょうてきけ あ ひつよう しょう こ てきせつ 医療的ケアを必要とする障がいのある子どもが適切な しえん う 支援を受けられるよう、2018年度末までに、かんけいきかんとう が連携を図るための きょうぎ ば せっち 協議の場を設置します。	ねんど きょうぎ ば せっち 2018年度に協議の場を設置しました。	もくひょうたっせい <u>目標達成</u>

せいかもくひょう ⑤ 医療的ケアを必要とする障がいのある子どもへの支援

せいかもくひょう もくひょうせつてい かんが かな
成果目標と目標設定の考え方

くに だ せいかもくひょう だい き
国から出されている成果目標（第5期）

2018年度末までに、各都道府県、各圏域及び各市町村に保健・医療・障がい福祉・保育・教育等の関係機関が連携を図るための協議の場を設ける。

くに しめ じきけいかく だい き せいかもくひょう
国が示す次期計画（第6期）の成果目標

2023年度末までに、保健・医療・障がい福祉・保育・教育等の関係機関が連携を図るための協議の場を設けるとともに、医療的ケア児コーディネーターを配置する。

くに もくひょうちせつてい かんが かな
○国における目標値設定の考え方

医療的ケア児支援のための協議の場の設置はある程度進みつつあるが、一方で医療的ケア児等に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターを配置しているケースは少ない。

さっぽろし げんこうけいかく せいかもくひょう
札幌市の現行計画の成果目標

2018年度末までに、医療的ケアを必要とする障がいのある子どもを支援するための協議の場を設けます。

さっぽろし じきけいかく せいかもくひょう
札幌市の次期計画の成果目標

2023年度末までに、医療的ケア児等に関するコーディネート機能の構築を目指します。

さっぽろし もくひょうちせつてい かんが かな
○札幌市における目標値設定の考え方

札幌市における社会資源の状況等をふまえながら、地域におけるコーディネート機能の構築を目指します。

せいかもくひょう ⑤ いりょうてきけ あ ひつよう しょう こ しえん
成果目標⑤ 医療的ケアを必要とする障がいのある子どもへの支援

もくひょうたっせい ほうさく
目標達成のための方策

しえんしゃようせいけんしゅう じゅうじつ
○ 支援者養成研修の充実

いりょうてきけ あ じ しえんしゃようせいけんしゅう じゅうじつ はか つう ちいき こんでいねーとぎのう こうじょう めざ
医療的ケア児の支援者養成研修の充実を図ることなどを通じて、地域におけるコーディネート機能の向上を目指
します。

さぽーと いし はいち
○ サポート医師の配置

しょう ふくしきーび すじぎょうしょ がっこう ほいくしょとう しえん さぽーと いし はいち いりょうてきけ あ じ うけいれそくしんとう し
障がい福祉サービス事業所や学校、保育所等を支援するサポート医師を配置し、医療的ケア児の受入促進等、支
援体制の充実を図ります。

しんき
新規

せいかもくひょう
成果目標⑥

そうだんし えんたいせい じゅうじつきょうかどう
相談支援体制の充実強化等

せいかもくひょう もくひょうせってい かんが かつ
成果目標と目標設定の考え方

くに だ せいかもくひょう だい き
国から出されている成果目標（第5期）

あたら もくひょう せってい
 ※ 新しい目標のため設定されていません。



くに しめ じきけいかく だい き せいかもくひょう
国が示す次期計画（第6期）の成果目標

ねんどまつ そうだんしえんたいせい じゅうじつ きょうかどう む
 2023年度末までに、相談支援体制の充実・強化等に向けた取組の実施体制を確保する。

○ くに おける もくひょうちせってい かんがえかた
国における目標値設定の考え方

そうごうてき せんもんてき そうだんしえん じっしおよ ちいき そうだんしえんたいせい きょうか む とりくみ ちゃくじつ すす
 総合的・専門的な相談支援の実施及び地域の相談支援体制の強化に向けた取組を着実に進めていくため、相談
 しえんたいせい じゅうじつ きょうかどう む とりくみ じっしたいせいかくほ せいかもくひょう あら せってい
 支援体制の充実・強化等に向けた取組の実施体制確保を成果目標として新たに設定する。

さっぽろし げんこうけいかく せいかもくひょう
札幌市の現行計画の成果目標

あたら もくひょう せってい
 ※ 新しい目標のため設定されていません。



さっぽろし じきけいかく せいかもくひょう
札幌市の次期計画の成果目標

くに しめ せいかもくひょう たっせいず せいかもくひょう
 国が示す成果目標は達成済みであるため、成果目標
 は設定しません。

さっぽろし おも とりくみ
札幌市の主な取組

- **総合的・専門的相談支援体制の実施（2019年度実績）**
 - ・ 司法機関からの依頼等、専門性の高い相談には、基幹相談支援センターが対応しています。（相談支援：456件）
 - ・ 障がい者相談支援事業所では、3障がいや高次脳機能障がい・発達障がいに総合的に対応しているほか、障がい者虐待・権利擁護といった専門的な相談にも対応しています。（相談支援：103,257件）

- **相談支援事業者に対する訪問等による指導助言の実施（2019年度実績）**
 - ・ 基幹相談支援センターにおいて、障がい者相談支援事業所の支援業務を実施しています。（支援件数：543件）
 - ・ 弁護士による巡回法律相談を実施しています。（11回）

- **相談支援事業者の人材育成のために行う支援の実施（2019年度実績）**

基幹相談支援センターによる研修（2回）、児童相談所や区役所との合同会議（1回）のほか、弁護士による巡回法律相談報告会（1回）を実施しています。

- **相談支援機関との連携強化の取組の実施（2019年度実績）**

自立支援協議会に相談支援部会を設置し、圏域ごとのエリア会議を実施して、連携強化を図る取組を実施しています。（定例会3回、エリア会議11回）

せい かもくひょう
成果目標⑦

しんき
新規

しょう ふくしき サービス とう しつ こうじょう
障がい福祉サービス等の質の向上を
はか とりくみ すいしん
図るための取組の推進

せいかもくひょう しょう ふくしき サービス しょう こうじょう はか とりくみ すいしん
成果目標⑦ 障がい福祉サービス等の質の向上を図るための取組の推進

せいかもくひょう もくひょうせってい かんが かつ
成果目標と目標設定の考え方

くに だ せいかもくひょう だい き 国から出されている成果目標（第5期）
あたら もくひょう せってい ※ 新しい目標のため設定されていません。



くに しめ じきけいかく だい き せいかもくひょう 国が示す次期計画（第6期）の成果目標
ねんどまつ さーびす しょう こうじょう はか 2023年度末までに、サービスの質の向上を図るための とりくみにかか たいせい こうちく 取り組みに係る体制を構築する。

○ くに おける もくひょうせってい かんが かつ
国における目標値設定の考え方

しょう ふくしき サービス たようか おお じぎょうしょ さんにゆう あらた しょうがいしゃそうごう しえん
 障がい福祉サービス等が多様化するとともに、多くの事業所が参入しているなかで、改めて障害者総合支援
 ほう きほんりねん ねんとう もくてき は りようしゃ しん ひつよう さーびす しょう ていきょう おこな じゅうよう
 法の基本理念を念頭に、その目的を果たすためには、利用者が真に必要なサービス等の提供を行うことが重要
 である。

さっぽろし げんこうけいかく せいかもくひょう 札幌市の現行計画の成果目標
あたら もくひょう せってい ※ 新しい目標のため設定されていません。



さっぽろし じきけいかく せいかもくひょう 札幌市の次期計画の成果目標
ねんどまつ しょう ふくしき サービス しょう こうじょう 2023年度末までに、障がい福祉サービス等の質の向上 はか とりくみ すいしん を図るための取組を推進します。

○ さっぽろし もくひょうせってい かんが かつ
札幌市における目標値設定の考え方

しょうらい あんていてき しょう ふくしき サービス ていきょう しょう ふくし かん じぎょう じっし
 将来にわたって安定的に障がい福祉サービス等を提供し、さまざまな障がい福祉に関する事業を実施していく
 ためには、提供体制の確保とともに、それを担う人材が必要であることから、引き続き、サービス等の質の向上を
 はか とりくみ すいしん
 図るための取組を推進していきます。

目標達成のための方策

○ 障がい福祉人材確保・定着サポート事業の実施

障がい福祉サービス事業所における人材確保・定着、サービスの質の向上を図るため、事業所管理者を対象とした管理者研修のほか、児童指導員等を対象とした初任者向け研修（児童発達支援研修）を実施します。また、障がい福祉サービス事業所等によるキャリアパス制度（経験や資格に応じた昇給・手当制度など）の導入を支援する「キャリアパス制度導入支援事業」や、専門学校等との連携により、新卒者等に対して直接障がい福祉の仕事の魅力を発信し、新規就職者の増加を目指す「障がい福祉サービス魅力発信事業」に新たに取り組みます。

※2019年度は、管理者研修（参加者数：287人）と児童発達支援研修（参加者数：922人）を実施しました。

○ 集団指導の実施と障害者自立支援審査支払等システムによる審査結果等の共有

障がい福祉サービス等に係る集団指導において、よくある指摘事項や請求誤りの事案を説明します。

※2019年度は、集団指導を3回実施しました。（参加事業所数：1,648事業所）

○ 障がい児地域支援マネジメント事業の実施

地域に配置された障がい児地域支援マネージャーが、担当地区内の障がい児通所支援事業所を訪問して、療育情報の把握と提供、療育への技術支援や関係機関の支援調整を行います。

※2019年度は、障がい児通所支援事業所への訪問を累計471回を実施しました。

成果目標⑧ 障がいのある人に対する理解促進（札幌市が独自に設定する目標）

現行の目標と達成状況

現行の目標	目標の達成状況／見込み	
<p>障がいのある方にとって地域で暮らしやすいまちであると思う障がいのある方の割合が2020年度末において60%となることを目指します。</p>	<p>2018年度：40.8% 2019年度：48.4%</p>	<p><u>達成は難しい見込み</u> ※「(札幌市)指標達成度調査」より</p>
<p>障がいのある子どもにとって地域で暮らしやすいまちであると思う保護者の割合が2020年度末において60%となることを目指します。</p>	<p>2018年度：— 2019年度：35.4%</p>	<p><u>達成は難しい見込み</u> ※「障がい福祉施策に係る障がい児者実態等調査」より注</p>

注：これまでは、札幌市が毎年実施している指標達成度調査で把握してきましたが、「障がいのある子どもにとって地域で暮らしやすいまちであると思う保護者の割合」については、母数が少ないことから、今後は「障がい福祉施策に係る障がい児者実態等調査」（3年ごとに実施）により把握します。

<参考>

「障がいのある子どもにとって地域で暮らしやすいまちであると思う保護者の割合」について指標達成度調査で把握した値（2018年度：20.2%、2019年度：25.0%）

せいかもくひょう しょう ひと たい りかいそくしん さっぽろし どくじ せってい もくひょう
成果目標⑧ 障がいのある人に対する理解促進（札幌市が独自に設定する目標）

せいかもくひょう もくひょうせってい かんが かつ
成果目標と目標設定の考え方

せいかもくひょう 成果目標	げんこうけいかく もくひょう 現行計画の目標	じきけいかく もくひょう 次期計画の目標
しょう かつ ちいき く 障がいのある方にとって地域で暮らしやすいまち であると思う障がいのある方の割合	ねんどまつ ばーせんと 2020年度末：60%	ねんどまつ ばーせんと 2023年度末：60%
しょう こ ちいき く 障がいのある子どもにとって地域で暮らしやすい まちであると思う保護者の割合	ねんどまつ ばーせんと 2020年度末：60%	ねんどまつ ばーせんと 2023年度末：60%

○ きっぽろし もくひょうちせってい かんが かつ
 札幌市における目標値設定の考え方

みたっせい じきけいかく ひ つづ せってい
 未達成であることから、次期計画においても引き続き設定します。

なお、目標値は、札幌市の総合計画である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」や「第4次さっぽろ子ども未来プラン」と整合性を図り設定しています。

さっぽろし おも とりくみ
札幌市の主な取組

○ 心のバリアフリーの普及啓発の推進（2019年度実績）

- ・ 心のバリアフリー推進マークを公募により決定しました。
- ・ 地下鉄ホーム柵にステッカーを掲示したり、地下鉄車両・駅掲示板に啓発ポスターを掲示しました。
- ・ さまざまな障がい特性等を掲載したガイドブックを再編し、4コマ漫画等を用いて比較的平易な内容とした「心のバリアフリーガイド（わかりやすい版）」を、市内の小学4年生へ配布しました。
- ・ 「心のバリアフリーとヘルプマーク」をテーマとした出前講座を3回実施しました。
- ・ 障害者差別解消法に係る取組の一つとして、2017年からヘルプマーク・ヘルプカードを配布しています。

（2020年3月末時点の累計配布数：約46,000個）

<心のバリアフリーとは>

高齢者や障がい者に対する差別や偏見（心のバリア）をなくして、思いやりと配慮を持って手助けしようとする行動や考え方のこと。

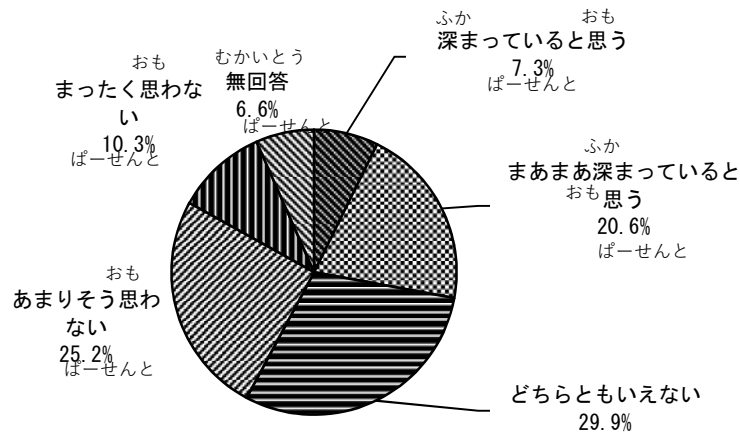
成果目標⑧ 障がいのある人に対する理解促進（札幌市が独自に設定する目標）

令和元年度障がい児者実態等調査の結果

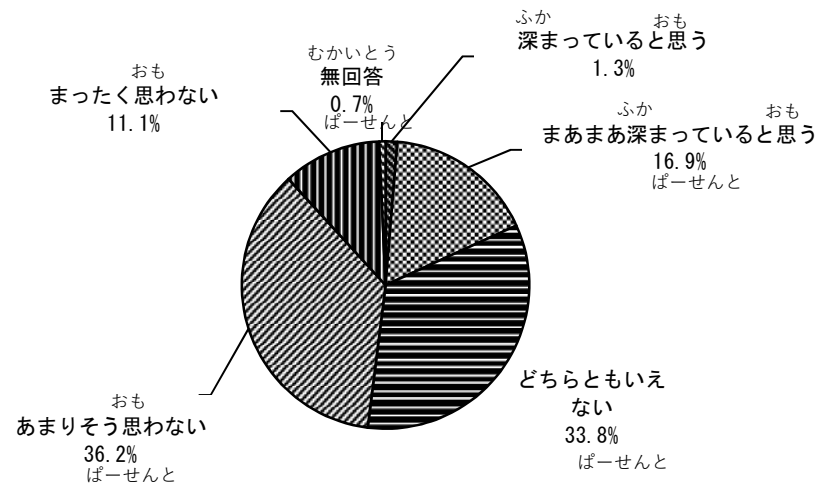
○ 障がい者に対する市民の理解

市民理解について、「あまりそう思わない」「まったく思わない」の割合が「深まっている」「まあまあ深まっている」よりも上回る傾向は、前回調査と変わりありません。

一方で、「(まあまあ) 深まっている」と感じる人の割合が、障がい者・障がい児調査ともに、前回調査（2016年）よりも増えています。（障がい者：26.6% → 27.9%、障がい児：14.3% → 18.2%）



【障がい者調査】



【障がい児調査】

もくひょうたっせい ほうさく
目標達成のための方策

○ こころ ばりあふりー ふきゅうけいはつ すいしん
心のバリアフリーの普及啓発の推進

- ・ ねんど 2020年度から、こころ ばりあふりー すいしんけんしゅう かいし
心のバリアフリー推進研修を開始します。

きぎょうむ しみんむ けんしゅう じっし けんしゅうしゅうりょうしゃ こころ ばりあふりー すいしんまーく ばっじ
企業向けと市民向けの研修をそれぞれ実施し、研修修了者には、心のバリアフリー推進マークのバッジを
はいふ
配布します。

- ・ ぜんねんど 前年度までに行ってきたおこな とりくみ ひ つづ すいしん
取組は引き続き推進していきます。 ※48頁参照